



学校だより

平成29年6月30日(金)

第764号

さいたま市立日進小学校

TEL: 663-6942

子どもとゆっくり語り合う時間を

校長 並木 昌和

梅雨明けは、まだまだ先のようにですが、暑い日が続くようになりました。1学期も残すところ14日ほどになりました。

夏休みを前にして子どもたちは「通知票」をもらうことになります。私は落ち着きがない子どもだったせいか、通信欄には、「私語が多い」とか「授業中に教師のあげ足を取る」といった事も書かれた記憶があります(もちろん、私の名誉のために弁解しますが、いつもそうであった訳ではありません!)。子どもの心に評価の基準など分かるはずがありませんので、「通知票」をもらって来ると、学期中の取組を含めてよく小言を言われたものです。翌日からの長い休みを前に気分が沈んでしまったものです。私にとって「通知票」は『痛心票』であったようです。

現在は、子どものよいところを積極的に認め、励みになるような「通知票」です。よく頑張ったところ、伸びたところ、加えて更に努力するとよいところなどが示されます。子どもたちの4月から4ヶ月間。この期間の努力や変容の様子をお伝えします。内容は、親子でよく話し合っ、自分の課題を見つけ、克服していくための指標にして欲しいと願っています。

立場を変えて、「通知票」を書く側になってみると、何回書いてもいつもいつも悩み苦しむものです。渡す当日の朝が白々と明ける頃になってもまだ決断ができず、悩みに悩んだ末に渡すことになったことも何回もあります。人が人を評価するという事は、大変難しいものです。特に教師にとっては、「通知票」を書くということは自分の教育実践の至らなさを痛感させられる事でもあります。反省し、課題を見つけ、新たな気持ちで頑張ろうと決意する時でもあります。子どもたちと同じです。

いつの時代でも幼い頃に楽しみだった夏休みの思い出は尽きることがありません。

子どもたちは学校から離れ、家庭での生活が中心になります。子どもとゆっくり語り合う時間を持って欲しいと願っています。困っていることや悩み、夢や希望等じっくり聞いてあげることで正面から子どもの心と向き合うことができます。大人としてのアドバイスを与えることもできるはずで、難しく考えることはありません。一緒に食事をしたり、乗り物に乗ったりした時に少しでも意識して時間を作ってください。もしかすると、そうした時間は小学校の今しか持つことができないかもしれません。なかなか難しいといった場合も、どんなかたちでもよいですから、常に子どものつながっている状態でいて欲しいと願っています。子どもの心を離さないで欲しいと切に願っています。

また、日頃は長い時間をかけることが難しい自主的な研究や学習、工作などに取り組むことも大変価値のあることです。子どもたちには、「普段はできないことに積極的にチャレンジしよう!」と呼びかけます。宿題もそうですが、子どもが自分で長期展望を持ち計画的に行うことは大変なことです。お力添えをお願いいたします。また、さいたま市では、地元の日進公民館をはじめとした様々な公共施設で、子どもたちの豊かな体験をサポートする事業がたくさん計画されています。遠くに出かけたり、特別に身構えたりしなくてもできることはたくさんあります。ぜひ、子どもに「得難い体験」をさせて欲しいと願っています。

改めて、1学期間、学校そして子どもたちを支えていただきました保護者・地域の皆様に深く感謝申し上げます。

8月29日の始業式には、一回り大きく成長した子どもたちの元気な姿に会えることを楽しみにしています。